



発行:八幡市教育委員会 令和8年(2026年)3月10日
URL <http://www.city.yawata.kyoto.jp/>

第86号

おもな記事

- ◆令和7年度全国学力・学習状況調査の結果 1面
- ◆これからの八幡の学校を考える その2 2・3面
- ◆小・中学生人権啓発ポスターコンクール 3・4面
- ◆寄贈 4面
- ◆教育に関する相談及び不登校に係る支援 4面
- ◆まなびーずとは！ 5面
- ◆「ああ楽しかった」明日も来なくなる 南ヶ丘保育園 6面

令和七年度全国学力・学習状況調査の結果

文部科学省による全国学力・学習状況調査が、小学校6年生、中学校3年生を対象に実施されました。教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)は、原則として前学年までに含まれる指導事項が出題範囲となつています。例年同様、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査(一人一台端末を使用してオンラインで回答)も行われました。

質問紙調査の結果を過去三年間で比較したところ、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、左の表のような結果になりました。

肯定的な回答をした割合(%)	小学校			中学校		
	R5	R6	R7	R5	R6	R7
自分には良いところがあると思いますか	83.4	80.5	84.2	75.2	83.1	84.2
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.6	96.0	97.0	93.2	93.7	95.6
国語の授業内容はよく分かりますか	84.6	81.1	73.6	80.7	76.5	74.5
算数・数学の授業内容はよく分かりますか	79.5	78.6	73.2	70.1	70.0	65.8

「自分には良いところがある」「人の役に立つ人間になりたい」という質問について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校共に、高い水準で推移しています。学習を下支えする児童生徒の意識面での基盤が定着していることが分かります。

一方、授業の内容がよく分かる」と答えた児童生徒は年々下がってきており、基礎学力の定着を図る取組の徹底と個別最適な学び、主

体的・対話的で深い学びに繋がる授業の研究をさらに進めていく必要があると考えます。

子どもの主体性の重視と学力

質問紙調査を詳しく見てみると、子どもの主体性の重視に関わる「分からないことや詳しく知りたいことがあるときに、自分で学び方を考え、工夫することはできませんか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」という質問について、肯定的な回答をしている児童生徒ほど正答率が高いことが分かりました。子どもが主体的に学ぶことができるよう、遊ぶ楽しさ、体験する楽しさ、学ぶ楽しさを創造するとともに、学習においても指導方法や学びの形態を工夫・改善し、児童生徒のポジティブな意識を高める環境づくりを進め、「楽しい学校づくり」を推進したいと思えます。

「読書」の大切さ

児童生徒の読書と平均正答率の

相関を見ますと、「読書は好きですか」という質問について、肯定的に回答している児童生徒の正答率が高いことが分かります。

読書は好きですか	読書は好きですか			
	小学校6年生		中学校3年生	
	国語	算数	国語	数学
平均得点率(%)				
すき	71.4	60.1	59.1	53.1
どちらかといえば、すき	61.1	50.8	52.8	43.7
どちらかといえば、すきではない	62.3	49	47.4	33.6
すきではない	51.6	39.9	38.5	31.1

文部科学省の分析においても、「児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進」として読書の推進を挙げており、読書が好きな児童生徒ほど正答率が高い傾向を示しています。豊かな心を育むだけでなく、確かな学力を身に付けるためにも、学校での読書活動のさらなる充実と、家庭での読書活動の推進を図っていききたいと考えています。

令和七年度全国学力・学習状況調査の問題、正答例は「国立教育政策研究所」のホームページで公開されています。(学校教育課)

これからの八幡の学校を考える その2

八幡市においても、少子化が進んでいます。また、学校施設の老朽化や教育環境の充実等の課題への対応も必要です。これからの学校を考えていくために、今回は様々な学校種や学校に関する制度等についてお伝えします。

学校制度

学校というと、小学校は6年、中学校は3年、と頭に浮かぶと思いますが、平成28年の学校教育法の改正で、義務教育学校や中等教育学校が、新たに制度化されました。また、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）や小規模特認校等もあります。現時点で八幡市での実施はありませんが、今後の学校教育を考える上で大切な情報です。

義務教育学校

小学校と中学校をひとつにまとめ、9年間を通して学ぶことができる学校です。1～9年生まで同じ学校で過ごすため、先生は子どもの成長を長い期間見守ることができ、学習内容も小中のつながりを踏まえて計画的に進められます。9年間同じ環境で過ごすため、活動や友だちづくり等の幅が限られる場合もあります。府内では、京都市や亀岡市に義務教育学校があります。また、義務教育学校ではありませんが、施設一体型の小中一貫校が、宇治市に2校（1校はR8年度開校予定）あります。

中等教育学校

今の中学校と高等学校をひとつにまとめた6年制の学校です。前期（中学相当）・後期（高校相当）に分かれています。ひとつの学校で6年間を通して学べるのが特徴です。学校が変わらないため、進学時の環境の変化が少なく、落ち着いて学校生活を送れるという見方があります。また、学習内容を6年間の流れで計画できることから、じっくり力を伸ばしやすいとされています。公立の高等学校は都道府県の管轄が多いため、政令都市以外では市立の中等教育学校はほぼ見られません。

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）

不登校や学校になじめない子どもが、自分に合った方法で学べるように工夫された新しいタイプの学校です。国の制度に基づき、少人数での学習や体験活動、個別のペースに合わせた授業など、柔軟な学び方ができるように設計され、「無理なく学びに向かえる環境」を大切にしています。全国で小学校13校、中学校41校が設置されています。（R7.11時点）

小規模特認校制度

地域にある小さな学校の魅力をより多くの子どもたちに届けるための制度です。少人数ならではの、先生や友だちとの距離が近い学びや、地域の自然や文化を生かした体験など、その学校ならではの良さを感じながら過ごすことができます。制度が始まると、今の通学区域にかかわらず、市内の小規模特認校を選んで通うことができるようになります。京都府内では、京田辺市、木津川市、宇治市、亀岡市等で取り組まれています。

学校規模によるメリット、デメリット

学校の規模は、子どもたちの学び方や、地域活動への参加の仕方にさまざまな影響を与えます。それぞれ良い点と課題があります。

	主なメリット	主なデメリット
小規模校	・教師と児童生徒の距離が近く、一人ひとりに目が行き届きやすい・アットホームな雰囲気、安心して過ごしやすい・地域とのつながりが深まりやすい	・学級人数が少なく、多様な人間関係をつくりにくい・部活動や特別活動の種類が限られやすい・教職員の負担が大きくなりやすい
中規模校	・人間関係の多様性と、安心感のバランスが良い・多様な学習活動やクラブ活動が実施しやすい・教職員の専門性を生かしやすい	・地域によっては教室の確保が難しくなる場合がある・教職員の行事や運営の負担がやや大きくなる傾向
大規模校	・多様な友人関係を築きやすい・部活動や学校行事が活発になりやすい・学年ごとに複数の教員が配置され、指導の幅が広がる	・一人ひとりに十分に目が行き届きにくい場合がある・校舎が広く、移動に時間がかかる・学校行事・生活指導の負担が大きくなりやすい

教育委員会としては、児童生徒や保護者、地域の方々と情報を共有し、学校教育に対する理解を得て、地域の実情や将来の人口動向を踏まえて、子ども達のよりよい教育環境を創っていくことが大切であると考えています。

今回は、学校に係るコスト（お金）について、お知らせする予定です。

第29回八幡市小・中学生人権啓発ポスターコンクール表彰式

12月6日（土）、八幡人権・交流センターにおいて「第29回八幡市小・中学生人権啓発ポスターコンクール表彰式」を行いました。

※人権フェスタの第2部として開催しました。

「人権」（人に対する思いやり、やさしさ、友人関係、いじめなど）について日頃感じていること、願っていることを絵画と言葉で表現する本コンクールには、市内の小・中学生から総数1,031点の応募があり、市長賞に福本 未玖（ふくもと みく）さん（男山中学校3年）の作品「ありがとうの言葉で笑顔をつなぐ」が選ばれました。

表彰されました受賞者15名は、次のとおりです。

（こども未来課）

受賞作品



会長賞

男山第二中学校2年
青川 洸大さん



市長賞

男山中学校3年
福本 未玖さん



教育長賞

美濃山小学校6年
人見 潤さん

優秀賞

八幡小学校6年
森田 花実さん

くすのき小学校6年
松岡 希子さん

さくら小学校6年
沖 山帆さん

橋本小学校6年
田中 美唯さん

有都小学校5年
松木 紘大さん

南山小学校5年
佐田 夏恋さん

美濃山小学校6年
浮田 楓さん

男山第二中学校1年
勝山 駿さん

男山第三中学校1年
吉村 春馬さん

男山東中学校2年
和田 萌々花さん

敬称略・順不同



教育長特別賞

中央小学校6年
吉田 結夢さん



会長特別賞

男山東中学校3年
竹ノ下 いくさん

寄贈

- NPO法人そらいろプロジェクト京都さまから市内小学校に、絵本「ピースマンのチョコキョキなんてこわくない！」(各校1部)
- 京都やわたライオンズクラブさまから市内小学校、幼稚園、認定こども園、保育園にチューリップの球根(各35個)
- 竹本 篤史 さまから南山小学校に、児童書(100冊)
- 大隅 紀和 さまから教育委員会に、木製ハンドル式巻線機(20台)
- 株式会社サーチライトさまから市内子育て支援センターにmarm(ベビースクーター)(10台)、平均台(2セット)
- 八幡市人権教育推進協議会さまから市内公立幼稚園・認定こども園・保育園に絵本(15冊)
(こども未来課)

教育に関する相談及び 不登校に係る支援

教育に関する相談

市内在住の幼児・小・中学生とその保護者の相談に、教育相談担当指導主事及びカウンセラーが応じます。

不登校支援

教育支援教室「さつき」

個の興味・関心に応じた活動や個の状況に応じた学習を通して、社会性を培うとともに、自立を促し、学校生活への適応や社会的自立を図ります。

市内在住で不登校の小・中学生が対象です。

【問い合わせ】

八幡市教育支援センター

所在地：八幡市男山笹谷2

電話：075-982-3001

時間：平日 9時～17時

※学校または教育支援センターに電話でお申し込みください。
※学校連絡アプリにて配信いたしましたパンフレットもご参照ください。

令和7年度新規事業 放課後学習教室「まなびーず」 南ヶ丘教育集会所

平成21年度から令和6年度まで実施の「やわた放課後学習クラブ」、令和5年度から6年度に試行実施の「地域による寺子屋事業」を統合・拡大し、令和7年度6月下旬より、自ら学びたい、漢字検定・算数検定を受検したいと希望する児童の学習を支援し、自学自習力と学習意欲の向上をねらいとして、市内全小学校・全学年を対象に、「放課後学習教室『まなびーず』」として実施しました。

市内から学習アドバイザーを募集し、各小学校内の会場にて実施しました。

1・2年生「まなびーず」は、主に、週1回（平日の放課後または土曜日の午前中）実施しました。毎回、読み・書き・計算タイムを設け、プリント学習に取り組みました。「今日は、10個書けた！」「1分20秒でできた！」など、自分自身と向き合いながら学習に取り組みました。また、自学自習形式で行う家庭学習（宿題）では、自分のペースでどんどん解くことができる児童は、「宿題できた！見てください。」と自信満々の表情で学習アドバイザーに確認してもらっている様子がありました。自分の力で解くことが難しい課題が出てきた時には、学習アドバイザーの支援を受けて頑張っている様子もありました。教室には学習につながるカードゲームや折り紙等を用意しており、児童は友達や学習アドバイザーと一緒に楽しい時間を過ごしました。

3～6年生「まなびーず」では、土曜日の午前中に漢字検定・算数検定の合格を目指して自学自習形式で学習に取り組みました。児童は、学習級を確定した後、自分の目標に向けて学習を進めました。「まなびーず」での漢字検定学習・算数検定学習の時間は、それぞれ35分間となっており、児童は、テキストの問題を解き、解答を見ながら自分で答えを確認して、学びを振り返り、次の学びに活かしていました。解答だけではわかりにくいところは、学習アドバイザーの支援を受けて学びを深めていました。11月には、模擬試験や過去問題に取り組みました。学習アドバイザーが採点した答案用紙を受け取った児童は、「前より点数が上がってきた！」「ここ、ミスした。もったいなかったわ。」「あともう少して、合格点や！」など、これまでの成果やこれからの課題と向き合っていました。また、学習アドバイザーからの「この前より点数上がったね！」「この調子！」「次は、ここに気を付けるといいね」などの言葉やご家庭での励ましの言葉は、さらに、児童の学習意欲の向上につながりました。漢字検定1月31日（土）、算数検定2月14日（土）の受検当日まで友達と励まし合いながら頑張っていました。今月、可否結果が届く予定です。

放課後学習教室「まなびーず」は、自ら学びたい、検定を受検したいと希望する児童の気持ちを応援しています。



「心と体を育む環境保育」

乳幼児期は人生の基礎、生きる力を養う大切な時期であり、この間の適切な教育（保育）がその後の人生に大きな影響を与えていると言われています。そんな大切な時期のこどもたちをお預かりしている南ヶ丘保育園では、「環境保育」を通じて「自己選択」「自己決定」のできるこどもたちに育てほしいと願い、こどもたち一人一人が自分の居場所を見つけ、安心して過ごすことのできる環境づくりに取り組んでいます。

園に入ると、こどもたち一人一人の顔写真とシンボルマークが温かく出迎えます。自分のマークを見つけると少し誇らしげに自分の居場所へ向かっていきます。

0歳児から5歳児まで、どのクラスにも「こどもが安心してこもれる空間」や発達に即した豊富なおもちゃが用意されており、迷いながらも「自分の居場所」を見つけだす朝のひとときが、こどもたちの確かな成長を育んでいます。

乳児クラスでは、「自分で選ぶ」という体験を大切にしています。小さなこどもがいつでも手を伸ばせるよう低い棚におもちゃを設置するなどの工夫を行うことで、「自己選択」ができる環境を整えています。

乳児クラス



幼児クラス



食事や排せつ等の生活空間はパーテーションで区切り、できるだけ家庭と近い環境にすることで安心できる環境づくりを意識しています。

幼児クラスでは、自分で選んだ遊びを深めることを大切にしています。クラスには、たくさんの遊びのコーナーがあり、こどもたちは毎朝「今日は何して遊ぼうかな?」「昨日の遊んでいた続きをしよう!」とワクワクしながら登園し、プランボードの前で自ら遊びを選びます。

ランチルーム



好きなあそびに没頭することで集中力が育ち、お友だちと一緒に遊ぶことで楽しみながら社会性が育まれます。遊びの選択を通して、一人一人の「やりたい」気持ちを大切にしながら、それぞれの遊びの時間を過ごしています。

また、遊びが一区切りした時には、自分たちで片付けができるよう工夫されたおもちゃ置き場におもちゃを戻し、自分の作品と分かるようにシンボルマークを付けて置いています。

こうした遊びの流れを大切にしながら、食事の時間においてもこども一人一人のペースを尊重しています。

おしゃれなテラス席の様なランチルームでは、自分でトレイを持ち、好きな席を選んでおいしい給食を食べます。

このような保育環境の中で、こどもたちは日々のびのびと過ごし「ああ楽しかった!」「明日も来るわ!」と元気いっぱい笑顔で降園してきます。

保育士は、一日が安心安全に過ごせたことに安堵しながら「さあ、明日はどんな仕掛けでこどもたちと一緒に遊ぼうかなあ?」と、こどもたちの笑顔を思い浮かべながら保育室を整えています。

おとなもこどもも「また明日来たくなる南ヶ丘保育園」を目指して。

(子育て支援課)